所沢市立美原中学校

学校だより No1

令和４年度　第１号
４月８日（金）

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

さぁ！！　令和４年度の始まりです！　入学式式辞より

桜の花びらが舞うおだやかな日差しの中、この良き日に令和４年度 所沢市立美原中学校 第４８回入学式が、ご来賓に所沢市長 藤本 正人 様のご臨席を賜るとともに多くの保護者の皆様のご列席の中、かくも盛大に挙行できますことを心より感謝申し上げます。

またコロナの制限中、ここにご参列をいただかずとも、あたたかいお言葉をいただいております地域の皆様と共に教職員・在校生一同、新入生の中学校生活のスタートを心よりお祝い申し上げます。

ただいま担任より呼名されました２３２名の新入生の皆さん、お待ちしていました。ようこそ美原中学校へ。入学おめでとうございます。皆さんは、たった今、美原中学校の生徒となりました。今日の中学校の入学にあたり、皆さんは、きっと期待と不安の入り交じる気持ちの中で中学校の制服に袖を通したと思います。しかし、心配しないでください。皆さんは、素晴らしい若さとエネルギーがあります。そんな皆さんは、人への感謝と尊重を忘れずに３年間を過ごせば、必ず失敗も成功も次へのステップの糧となり、充実した中学校生活になります。その証拠に午前中に始業式をおこなった上級生は、昨年度、卒業した生徒たちと、度重なる試練に遭いながらも我慢と努力を重ね、体育祭、美原祭（合唱祭）を工夫と努力で克復し、３年生を送る会をやりとげ、立派な卒業式へと歩んだ先輩たちを輩出しています。多くの経験を通じて、この美原中学校を支えあった上級生ですから是非、皆さんも１日も早く、この上級生と力を合わせ、美原中学校を支える一員に成長してください。期待しています。

さて、美原中学校は、「自分の特性と価値を知り、他人の良さを認め、自分らしく将来を生きる術を身に着けること」を経営方針に据え、「すべての生徒が持つ特性も尊重される学校」として、「本気の笑顔が体験できる美原中学校」を目指す学校像として活動しています。

当たり前のことですが学校は、学力をつけるところです。しかし、私が考える学力とは、単に知識の量だけにとどまらず、その知識や経験を生かし、「世の中をたくましく生きる判断力と実践を伴った総合的な力」だと考えています。その力を身につけるため、本校では、様々な活動を通じ、集団の一人としての行動のあり方、人との接し方などを学びます。また道徳や進路・キャリア学習、職場体験など、自分の良さや特性を知り、その力を生かした生き方をもって将来のことを考えることも学びます。

更に運動も行い、精神的・身体的な体力も身に着ける努力をします。このような様々な学習と体験を通じて、「粘り強く生きる力」を身につけていきます。

また学校教育目標にある「心豊かな生徒」とは、思いやりの心をもって、正しい判断と行動の練習を繰り返し、他人と協力しながら生きる、社会性を身につけた人のことです。このような主体的に生きる大人になるための「学び」を目指す学校こそ、美原中学校なのです。

そんな美原中学校では、今年から男女混合名簿を取り入れスタートとしました。この導入の原点は、一人ひとりの個性の尊重にあります。本校は、男女混合名簿の使用などの方法論だけにとどまらず更に深く、人の尊厳について学んでいきたいと考えています。

ここで新入生の皆さんにこの詩をおくります。この詩は、午前中の始業式でも式辞の中で在校生に伝えた詩です。美原中の一員になった皆さんにも伝えさせてください。

「人の道」

家族を思う心
先人を敬う心
弱いものをいたわる心
己に打ち勝つ心
利害損得に流されず
まっすぐに生きる人の道
一途に誠実に
ただひたすら　まっすぐに
人は人のために生きてこそ人という
時を超え
天地に恥じることなく
公明正大に生きていく

※この詩は、福島県　飯盛山　会津白虎地蔵に書かれているもの

最後に、保護者の皆様、本日は、お子様のご入学、誠におめでとうございます。保護者の方々は、今までの子育ての中で様々なことがあっても、本日少し、大きめの制服を着るわが子を見て言葉にならない幸せを感じているのではないでしょうか。中学校を卒業すると多くの保護者と生徒が言葉にするのが、中学校の３年間は、終わってみると本当に短く感じるということです。この中学校の３年間で生徒は、心身ともに本当に大きく成長し変化して参ります。しかし、子どもの成長スピードと変化が激しい分、保護者としても更に葛藤する厳しい時期があるはずです。しかし、その中にあっても保護者が一生懸命子どもに寄り添い、支えようとしている姿は、必ず生徒は、見ています。その証拠に今年の美原中学校の卒業生からは、校長面接の時保護者に対する感謝の言葉が本当に多く聞けました。このような生徒に出会えることは、教師として大変うれしいい瞬間です。これからの３年間、学校と保護者の双方が子供の真の成長を願い、ベクトルを合わせ、いかに世の中が大きく変化し様々な情報が氾濫しようとも、私たちは、教育の目的を「未来を切り拓く生徒の育成」とし、教職員が総力をあげ最善の努力をしてまいりたいと存じます。どうぞご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

結びになりますが、本日大変お忙しい中、ご参列いただきました、ご来賓の藤本市長並びにご参列いただきました保護者の皆様にお礼とお祝いを申し上げます。今後も地域に誇れる中学校となれるよう、努力してまいりますので、保護者の皆様・地域の皆様のあたたかいご声援と美原中学校へのご理解とご協力を賜れますよう切にお願い申し上げ、式辞といたします。

※ 第二面に続く。

上級生出番ですよ！！　令和４年度の始まりです。始業式式辞より

桜の花びらの舞いと心の揺らめきの重なるこの春の日に、本日無事上級生に進級した新２年生２３９名並びに新３年生２２２名の皆さん、進級おめでとうございます。いよいよ３年生の皆さんは、最上級生です。２年生も本年度の後半からは、受験期を迎える３年生に代わって学校の中心としての活躍が求められます。中学校の３年間は、本当に早いなと実感します。皆さんには、昨年、毎月様々なお話をしましたが,

今日の始業式では、これからの１年間で皆さんに感じてもらいたい「三つの幸せ」についてお話をします。

人は、誰しも幸せになることを願っています。その幸せの形は、人それぞれ異なると思いますが、「幸せには、三つの受け止め方がある」と言われます。一つ目の幸せは、「してもらう幸せ」です。赤ちゃんが、やさしくだいてもらったり、あやしてもらったりすると、安心して満ち足りた表情をします。大人でも人から、やさしくしてもらったり、助けてもらったりすると、うれしいものです。これが「してもらう幸せ」です。

二つ目の幸せは、「できるようになる幸せ」です。今まで点数をとれなかった教科ができるようになったり、今まで出せなかった自分の良さを出せるようになったりというように今までできなかったことが、できるようになると、うれしくてとても幸せな気持ちになります。これが「できるようになる幸せ」です。このような幸せな気持ちを今年は、たくさんの人に味わってもらいたいと思います。この幸せを味わうためには、当然、今まで、できなかったことにチャレンジするわけですから、求めた結果が出ず、幸せを味わえないこともあります。ですから、どんな失敗も経験と捉え、自分を鍛えぬく力を身につけなくては、新たなる楽しさを味わうことができません。「できるようになる幸せ」を体験するまで続ける力、実は、この力が一番大切かもしれません。是非、皆さんに獲得してもらいたい力です。

そして、三つ目は、「してあげる幸せ」です。家族に何か頼まれてそれをやってあげると喜ばれます。友達が困っているときに手助けをしてあげると喜ばれます。このように自分がしてあげたことによって人が喜ぶ。このうれしそうな顔を見て、自分もまた幸せを感じる。これが「してあげる幸せ」です。昨年度の３年生を送る会は、これを感じた良い機会でした。友人や家族にしてあげる幸せを味わっている人を私は、美原中学校で何人も見ます。是非、今日入学した後輩にも「様々なことを伝え」後輩には、「してもらう幸せ」を体験してもらい、上級生の皆さんは「してあげる幸せ」を味わってください。そのためには、口先だけで伝えず何事も行動に裏付けられた「信頼される先輩」になってください。礼儀をわきまえ、人を尊重し、行動によって示すことのできる先輩です。こうして毎日を重ね、学校の素晴らしい活動を継承すると更に前進した美原中学校が生まれます。

是非、皆さんに三つの幸せを今年１年間で、何度も味わってもらいたいと願っています。

ここでは、ひとつの詩を紹介して始業式の話しをしめくくりたいと思います。

「人の道」再掲　入学式式辞参照

一年の始まりにあたり、皆さんも幸せということ、そして、人としての生き方を考えてみてください。「さぁ！上級生の出番です。」プライドのある上級生として皆で頑張りましょう。　令和４年　４月８日　所沢市立美原中学校長　　吉田　和生